授業科目	作業療法概論	科目担当者	後藤　一樹
学年	1 年	学期/時間数	前期　/　30 時間
授業形態	☑ 講義　☐ 演習　☐ 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	作業療法士として「作業療法とは何か」といった根幹的な知識を講義やグループワークを通して学ぶ。歴史や理論を学び体系的に理解することで作業療法士の専門性や役割および意識を高めていく。また、作業療法士としての資質や適正および倫理を学び、専門領域別の作業療法の実際について理解を深める。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	①　作業療法の定義が述べることができる。 ②　作業療法の理論および、その重要性を理解できる。 ③　作業療法の歴史を理解できる。 ④　理学療法士および作業療法士法について理解できる。 ⑤　領域別の作業療法について理解できる。 ⑥　医療従事者としての倫理、および資質について理解できる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	作業療法とは
第 2 回	領域別の作業療法
第 3 回	作業の意味
第 4 回	作業療法の源流：作業療法の起源から作業パラダイムまで
第 5 回	作業療法の源流：作業パラダイムから作業行動パラダイムまで
第 6 回	作業療法理論と階層性
第 7 回	作業療法理論の実際
第 8 回	作業療法実践および理学療法に関する法律
第 9 回	作業療法実践における自己活用
第 10 回	作業療法の倫理、作業療法士に求められる資質・適正
第 11 回	各領域の作業療法実践：精神障害領域
第 12 回	各領域の作業療法実践：身体障害領域
第 13 回	各領域の作業療法実践：発達障害領域
第 14 回	各領域の作業療法実践：老年期障害領域
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	レポート 20%　定期試験（筆記）80%
準備学習	講義前に教科書の学習範囲を熟読しておくこと
事後学習	講義資料は講義回ごとにファイルにとじ、インデックスをつける等の工夫をすることで、講義の資料が後からでも把握できるように整理してください。授業後に講義資料および参考書を用いて復習してください。
教科書	東登志夫　監修：「シンプル作業療法学シリーズ　作業療法概論テキスト〔電子版付〕」　南江堂
参考書	
オフィスアワー	金曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：k-gotou@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	作業療法士として精神科領域での勤務の経験を基に実践に即した講義を行う。

授業科目	ひとと作業療法	科目担当者	後藤　一樹
学年	2 年	学期/時間数	後期　/　15 時間
授業形態	☑ 講義　☐ 演習　☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	ひとの作業遂行は人間発達の中でどのように変化していくのか、その過程における課題は何か、各発達過程における課題をどのように乗り換え解決していくかを発達理論と人間作業モデルの視点から学習する。グループワークへの積極的な参加を望む。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション　☐その他（　　）		
到達目標	①人間発達の領域を理解し、人間が社会的存在であることを説明できる。 ②フロイト、エリクソン、ピアジェの発達理論を理解し、説明できる。 ③ライフステージごとの発達学的特徴を、人間作業モデルを通じ理解しライフステージと作業について説明できる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	総論：ライフステージと理論
第 2 回	各論：作業適応について
第 3 回	各論：意志について
第 4 回	各論：習慣化について
第 5 回	各論：遂行技能について
第 6 回	各論：環境について
第 7 回	作業面接について
第 8 回	統合と解釈について
第 9 回	
第 10 回	
第 11 回	
第 12 回	
第 13 回	
第 14 回	
第 15 回	
成績評価の方法 [評価項目と割合]	課題レポート　100%
準備学習	講義前に教科書の学習範囲を熟読しておくこと
事後学習	講義資料は講義回ごとにファイルにとじ、インデックスをつける等の工夫をすることで、講義の資料が後からでも把握できるように整理してください。授業後に講義資料および参考書を用いて復習してください。
教科書	教科書：上杉 雅之　監修：「イラストでわかる人間発達学」医歯薬出版 教科書：山根 寛　著：「ひとと作業・作業活動新版」三輪書店
参考書	
オフィスアワー	金曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：k-gotou@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	作業療法士として精神科領域での勤務の経験を基に実践に即した講義を行う。

授業科目	基礎作業学理論	科目担当者	髙内　志保
学年	1 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	☑ 講義　☐ 演習　☐ 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	作業療法で用いる作業とは何かを理解するために、日々の生活の中で行っている作業を分類し、ライフステージや性別による違いを知る。また、作業を用いた治療が行えるように、作業の分析方法を習得し、作業の利用のしかたや作業を選択する手順を理解する。 作業の治療適応用のための基本理論を理解する。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	①作業療法と作業の関係について説明できる。 ②包括的作業分析を実施できる。 ③作業の利用および作業を選択する手順を説明できる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	作業の定義
第 2 回	作業の分類
第 3 回	生活行為　目的と意味のある作業
第 4 回	作業分析の目的・種類
第 5 回	限定的作業分析
第 6 回	作業活動
第 7 回	包括的作業分析（運動機能、感覚・認知機能、コミュニケーション、リスク）
第 8 回	包括的作業分析（治療的応用について）
第 9 回	作業の利用
第 10 回	作業の選択
第 11 回	作業の適応
第 12 回	作業の段階づけ
第 13 回	作業学習と指導法
第 14 回	作業を用いた介入事例
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	課題レポート 20%、定期試験（筆記）80%
準備学習	教科書の該当箇所を読む
事後学習	専門用語の理解をするために、言葉の意味を調べ、講義の復習をする
教科書	山根 寛　著：「ひとと作業・作業活動新版」三輪書店 浅沼 辰志　編集：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業学第 3 版」メジカルビュー社
参考書	濱口 豊太 編集:「標準作業療法学専門分野 基礎作業学第 3 版」医学書院
オフィスアワー	水曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	作業とは何か。経験を通して実感できるよう講義を行う。 作業分析、作業を選択する手順の基礎を講義する。

授業科目	作業療法基礎演習Ⅰ	科目担当者	岩本　凌
学年	1 年	学期/時間数	前期 ／ 30 時間
授業形態	☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	作業療法士として、人体の形態的特徴や構造、およびその機能や働きを理解することは必須である。 この科目では、専門基礎分野で学ぶ「解剖学Ⅱ」「生理学Ⅱ」「運動学Ⅱ」を関連付けて、専門知識へと繋がるよう国家試験で問われるポイントを押さえながらグループワークを行う。単元ごとに小テストを実施し理解度を確認する		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	①医学用語や常用漢字についての意味を理解し、説明ができる。 ②「解剖学Ⅰ」「生理学Ⅰ」「運動学Ⅰ」について学習し、理解を深めることができる。 ③学習方法をみつけることができる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	細胞　（演習）
第 2 回	骨①　（演習）
第 3 回	骨②　（演習）
第 4 回	骨③　（演習）
第 5 回	関節①　（演習）
第 6 回	関節②　（演習）
第 7 回	関節③　（演習）
第 8 回	筋①　（演習）
第 9 回	筋②　（演習）
第 10 回	筋③　（演習）
第 11 回	筋④　（演習）
第 12 回	筋⑤　（演習）
第 13 回	循環器①　（演習）
第 14 回	循環器②　（演習）
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	小テスト 100％
準備学習	資料に関連する教科書を準備し熟読しておきましょう
事後学習	単元ごとに小テストを行いそれが成績になりますので、授業ごとに復習をおこなっておきましょう。
教科書	適宜、資料を配布する。資料に関連する教科書を準備すること
参考書	
オフィスアワー	金曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：iwamoto@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	「解剖学Ⅰ」「生理学Ⅰ」「運動学Ⅰ」で学んでいる内容について、演習を通して知識の定着を促す。

授業科目	作業療法基礎演習Ⅱ	科目担当者	油田　あゆみ
学年	1 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	作業療法士として、人体の形態的特徴や構造、およびその機能や働きを理解することは必須である。 この科目では、専門基礎分野で学ぶ「解剖学Ⅱ」「生理学Ⅱ」「運動学Ⅱ」を関連付けて、専門知識へと繋がるよう国家試験で問われるポイントを押さえながらグループワークを行う。単元ごとに小テストを実施し理解度を確認する		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	①医学用語や常用漢字についての意味を理解し、説明ができる。 ②「解剖学Ⅱ」「生理学Ⅱ」「運動学Ⅱ」について学習し、理解を深めることができる。 ③学習方法をみつけることができる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	感覚器①　（演習）
第 2 回	感覚器②　（演習）
第 3 回	呼吸器①　（演習）
第 4 回	呼吸器②　（演習）
第 5 回	消化器①　（演習）
第 6 回	消化器②　（演習）
第 7 回	腎と泌尿器　（演習）
第 8 回	中枢神経系①　（演習）
第 9 回	中枢神経系②　（演習）
第 10 回	中枢神経系③　（演習）
第 11 回	中枢神経系④　（演習）
第 12 回	末梢神経系①　（演習）
第 13 回	末梢神経系②　（演習）
第 14 回	末梢神経系③　（演習）
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	小テスト 100％
準備学習	資料に関連する教科書を準備し熟読しておきましょう
事後学習	単元ごとに小テストを行いそれが成績になりますので、授業ごとに復習をおこなっておきましょう。
教科書	適宜、資料を配布する。資料に関連する教科書を準備すること
参考書	
オフィスアワー	木曜日の 12：10～13：00、職員室 メールアドレス：yuda@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	「解剖学Ⅱ」「生理学Ⅱ」「運動学Ⅱ」で学んでいる内容について、演習を通して知識の定着を促す。

授業科目	作業療法基礎演習Ⅲ	科目担当者	髙内　志保
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	作業療法士として人体の形態的特徴や構造、およびその機能や働きを理解することは必須である。この科目では、１年次の「作業療法基礎演習Ⅰ・Ⅱ」で学修した内容を返りつつ、グループワークを通して基本的な知識を再確認し、さらに深化させていく。単元ごとには小テストを実施し理解度を確認する。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション　☐その他（　　）		
到達目標	⑦　解剖学、生理学、運動学の基本的な知識が定着できる。 ⑧　グループワークを通じ、他者に説明ができる。 ⑨　学習方法を身につけることができる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	細胞　（演習）
第 2 回	骨①　（演習）
第 3 回	骨②　（演習）
第 4 回	骨③　（演習）
第 5 回	関節①　（演習）
第 6 回	関節②　（演習）
第 7 回	関節③　（演習）
第 8 回	筋①　（演習）
第 9 回	筋②　（演習）
第 10 回	筋③　（演習）
第 11 回	筋④　（演習）
第 12 回	筋⑤　（演習）
第 13 回	循環器①　（演習）
第 14 回	循環器②　（演習）
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	小テスト 100％
準備学習	資料に関連する教科書を準備し熟読しておきましょう。
事後学習	単元ごとに小テストを行いそれが成績になりますので、授業ごとに復習をおこなっておきましょう。
教科書	適宜、資料を配布する。資料に関連する教科書を準備すること
参考書	
オフィスアワー	水曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	「解剖学」「生理学」「運動学」で学んでいる内容について、演習を通して知識の定着を促す。

授業科目	作業療法基礎演習Ⅳ	科目担当者	髙内　志保
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	作業療法士として人体の形態的特徴や構造、およびその機能や働きを理解することは必須である。この科目では、１年次の「作業療法基礎演習Ⅰ・Ⅱ」で学修した内容を返りつつ、グループワークを通して基本的な知識を再確認し、さらに深化させていく。単元ごとには小テストを実施し理解度を確認する。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション　☐その他（　　）		
到達目標	⑩　解剖学、生理学、運動学の基本的な知識が定着できる。 ⑪　グループワークを通じ、他者に説明ができる。 ⑫　学習方法を身につけることができる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	感覚器①　（演習）
第 2 回	感覚器②　（演習）
第 3 回	呼吸器①　（演習）
第 4 回	呼吸器②　（演習）
第 5 回	消化器①　（演習）
第 6 回	消化器②　（演習）
第 7 回	腎と泌尿器　（演習）
第 8 回	中枢神経系①　（演習）
第 9 回	中枢神経系②　（演習）
第 10 回	中枢神経系③　（演習）
第 11 回	中枢神経系④　（演習）
第 12 回	末梢神経系①　（演習）
第 13 回	末梢神経系②　（演習）
第 14 回	末梢神経系③　（演習）
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	小テスト 100％
準備学習	資料に関連する教科書を準備し熟読しておきましょう。
事後学習	単元ごとに小テストを行いそれが成績になりますので、授業ごとに復習をおこなっておきましょう。
教科書	適宜、資料を配布する。資料に関連する教科書を準備すること
参考書	
オフィスアワー	水曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	「解剖学」「生理学」「運動学」で学んでいる内容について、演習を通して知識の定着を促す。

授業科目	作業療法総合演習	科目担当者	油田あゆみ 宮尾京介 岩本 凌 上原佳代 後藤一樹 髙内志保
学年	3 年	学期/時間数	後期 / 90 時間
授業形態	☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	3 単位
授業の概要と方法	今まで学んできた知識を整理し、国家試験問題の解説ができるように、グループ学習を行う。また、グループ担当教員と連携をとり、学習状況を共有する。 実力テストや模擬試験などの筆記試験を実施し、学習の理解度や苦手な点を明らかにし、国家試験合格を目指す。 アクティブラーニング　☑グループワーク　☑ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	①専門基礎科目の知識を理解し、説明できる。 ②専門科目の知識を理解し、説明できる。 ③国家試験に合格しうる知識を身につける。		

授 業 計 画	内　　容				
第 1 回	国家試験対策講座	第 16 回	運動学 姿勢・歩行	第 31 回	まとめ③
第 2 回	学習方法について	第 17 回	運動学 運動学習	第 32 回	作業療法評価学
第 3 回	解剖生理学 循環・呼吸	第 18 回	人間発達学	第 33 回	地域作業療法学
第 4 回	解剖生理学 消化・泌尿器	第 19 回	病理学	第 34 回	義肢・装具学
第 5 回	解剖生理学 生殖器・代謝	第 20 回	骨関節障害と臨床医学	第 35 回	作業療法治療学の基礎
第 6 回	解剖生理学 内分泌・体温	第 21 回	中枢神経障害と臨床医学	第 36 回	まとめ④
第 7 回	解剖生理学 中枢神経	第 22 回	末梢神経・筋障害	第 37 回	精神・心理障害の OT
第 8 回	解剖生理学 末梢神経	第 23 回	まとめ②	第 38 回	高次脳機能障害の OT
第 9 回	解剖生理学 骨格筋・感覚	第 24 回	内部障害	第 39 回	骨関節障害の OT
第 10 回	解剖生理学 体表解剖	第 25 回	精神障害と臨床医学	第 40 回	中枢神経障害の OT
第 11 回	まとめ①	第 26 回	老年期・小児の障害	第 41 回	神経筋障害の OT
第 12 回	運動学 骨・関節	第 27 回	臨床心理学	第 42 回	運動・発達障害の OT
第 13 回	運動学 上肢	第 28 回	リハ医学・リハ概論	第 43 回	内部障害の OT
第 14 回	運動学 下肢	第 29 回	基礎作業療法学	第 44 回	その他障害の OT
第 15 回	運動学 頸部・顔面・体幹	第 30 回	作業療法管理学	第 45 回	まとめ⑤
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	実力テスト・模擬試験（筆記）100％				
準備学習	国家試験対策スケジュールを確認し、翌日の学習範囲について予習する。				
事後学習	学内での学習内容を復習する（自宅課題あり）				
教科書	医歯薬出版編：「理学療法士・作業療法士国家試験必須ポイント専門基礎分野 基礎医学」、「臨床医学」、「基礎 OT」、「障害別 OT 治療学」医歯薬出版 医療情報科学研究所編：「クエスチョン・バンク　理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 共通問題」、「専門問題」メディックメディア				
参考書	1 年次、2 年次までの全ての科目で用いた教科書・配布資料				
オフィスアワー	岩本　木曜日の 12：10～12：45、職員室　　メールアドレス：miyao@tohaya.ac.jp 髙内　水曜日の 12：10～12：45、職員室　　メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp				
教員の実務経験	作業療法士				
実務経験を活かした教育内容	国家試験合格に必要な基礎科目ならびに専門科目に関する知識と技能をこれまでの講義を総括しながら学修する。				

授業科目	臨床実習指導Ⅰ	科目担当者	油田 あゆみ
学年	1 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	☐ 講義 ☑ 演習 ☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	臨床見学実習にむけて、職業人としての常識的行動や責任ある行動および、対象者やスタッフへの適切な対応と望ましい人間関係を学び、施設における作業療法士の役割について理解する。また臨床見学実習では、コミュニケーション中心の介入となるため、コミュニーケーションスキルについても理解する。これらはレポートおよび小テストを適宜実施することで理解度の確認をする。		
	アクティブラーニング ☑グループワーク ☑ディスカッション ☐プレゼンテーション ☐その他（ ）		
到達目標	⑬ 見学実習の心得と、求められる課題を理解できる。 ⑭ 職業人・医療人としての常識的行動・態度を理解できる。 ⑮ 見学実習に行くための知識・技能を身につける。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	臨床見学実習の概要：オリエンテーション
第 2 回	職業人としての常識的行動・態度（身だしなみ/接遇）、作業療法士の倫理（守秘義務/礼節/個人情報保護）
第 3 回	実習施設の概要（調べ方と演習）、実習施設の機能と役割
第 4 回	実習施設における作業療法士の役割について、報告連絡相談の方法、
第 5 回	リスク管理（標準予防策：手洗いマスクの付け方）、転倒予防 実技演習
第 6 回	まとめ（リスク管理、転倒予防）
第 7 回	見学時のマナー、自己紹介、コミュニケーション 実技演習
第 8 回	まとめ（見学時のマナー、自己紹介、コミュニケーション）
第 9 回	介助方法①（車いすの部位名称と機能） 実技演習
第 10 回	介助方法②（車いすの移乗介助） 実技演習
第 11 回	まとめ（車いすの部位名称と機能、移乗介助）
第 12 回	見学実習での学習目標について、見学実習録の作成・確認
第 13 回	実習生プロフィール作成① 自己紹介および自己アピールの作成
第 14 回	実習生プロフィール作成② 実習目標の作成および実習施設の情報収集
第 15 回	見学実習における電話対応、必要書類（実習記録、報告書、礼状を含む）の説明と作成方法
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	小テスト 30%、レポート 70%
準備学習	見学実習の内容について、臨床見学実習録を用いて復習しておくこと。
事後学習	必要に応じて資料を確認して復習すること。
教科書	実習録 他、必要に応じ適宜プリントを配布していく。
参考書	
オフィスアワー	木曜日の 12：10～13：00、職員室 メールアドレス：yuda@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	実際の対象者を想定しながら演習を行い、知識・技能の定着を図ります。

授業科目	臨床実習指導Ⅰ	科目担当者	油田 あゆみ
学年	1 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	☐ 講義 ☑ 演習 ☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	臨床見学実習にむけて、職業人としての常識的行動や責任ある行動および、対象者やスタッフへの適切な対応と望ましい人間関係を学び、施設における作業療法士の役割について理解する。また臨床見学実習では、コミュニケーション中心の介入となるため、コミュニーケーションスキルについても理解する。これらはレポートおよび小テストを適宜実施することで理解度の確認をする。		
	アクティブラーニング ☑グループワーク ☑ディスカッション ☐プレゼンテーション ☐その他（ ）		
到達目標	⑯ 見学実習の心得と、求められる課題を理解できる。 ⑰ 職業人・医療人としての常識的行動・態度を理解できる。 ⑱ 見学実習に行くための知識・技能を身につける。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	臨床見学実習の概要：オリエンテーション
第 2 回	職業人としての常識的行動・態度（身だしなみ/接遇）、作業療法士の倫理（守秘義務/礼節/個人情報保護）
第 3 回	実習施設の概要（調べ方と演習）、実習施設の機能と役割
第 4 回	実習施設における作業療法士の役割について、報告連絡相談の方法、
第 5 回	リスク管理（標準予防策：手洗いマスクの付け方）、転倒予防 実技演習
第 6 回	まとめ（リスク管理、転倒予防）
第 7 回	見学時のマナー、自己紹介、コミュニケーション 実技演習
第 8 回	まとめ（見学時のマナー、自己紹介、コミュニケーション）
第 9 回	介助方法①（車いすの部位名称と機能） 実技演習
第 10 回	介助方法②（車いすの移乗介助） 実技演習
第 11 回	まとめ（車いすの部位名称と機能、移乗介助）
第 12 回	見学実習での学習目標について、見学実習録の作成・確認
第 13 回	実習生プロフィール作成① 自己紹介および自己アピールの作成
第 14 回	実習生プロフィール作成② 実習目標の作成および実習施設の情報収集
第 15 回	見学実習における電話対応、必要書類（実習記録、報告書、礼状を含む）の説明と作成方法
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	小テスト 30%、レポート 70%
準備学習	見学実習の内容について、臨床見学実習録を用いて復習しておくこと。
事後学習	必要に応じて資料を確認して復習すること。
教科書	実習録 他、必要に応じ適宜プリントを配布していく。
参考書	
オフィスアワー	木曜日の 12：10～13：00、職員室 メールアドレス：yuda@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	実際の対象者を想定しながら演習を行い、知識・技能の定着を図ります。

授業科目	臨床実習指導Ⅲ	科目担当者	髙内志保　宮尾京介 岩本凌
学年	2 年	学期/時間数	後期　/　60 時間
授業形態	☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	地域作業療法実習の事前学習として、「在宅支援サービス事業所（通所リハ・訪問リハ）」の概要、「地域作業療法の役割とプロセス」について理解する。実践を意識した実技演習を繰り返し、評価技術を身につける。評価技術は各小テストを実施し評価する。多職種との連携を行い、作業療法だけでなく多職種からの視点を含めた治療・指導・援助の方法を理解する。適宜レポートのフィードバックを行い、事例に関するまとめを行う。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☑ディスカッション　☐プレゼンテーション　☐その他（　　）		
到達目標	①臨床実習に参加するための接遇・態度や記録・管理について理解できる。 ②通所リハビリテーションおよび訪問リハビリテーションの概要、作業療法士の役割を理解できる。 ③評価の意義と目的について説明できる。 ④実際の対象者を想定し、各検査測定を説明・実施できる。 ⑤多職種の特徴や役割について理解できる。 ⑥各専門職でのチーム医療について理解できる。		

授 業 計 画	内　　容				
第 1 回	地域実習ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ、個人情報保護等	宮尾	第 16 回	実習生プロフィール作成	宮尾
第 2 回	通所および訪問リハの概要と役割	宮尾	第 17 回	地域実習録の説明と作成方法	宮尾
第 3 回	地域実習での学習目標と実習施設の概要	宮尾	第 18 回	フィードバック（最終確認事項含む）	宮尾
第 4 回	物理療法について	岩本	第 19 回	専門職連携事前演習（事例提示）	宮尾
第 5 回	作業療法評価法演習（標準感染予防策）	髙内	第 20 回	専門職連携事前演習（アセスメント）	岩本
第 6 回	作業療法評価法演習(バイタル測定)	髙内	第 21 回	専門職連携事前演習（ICF）	宮尾
第 7 回	作業療法評価法演習（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ技法）	髙内	第 22 回	専門職連携事前演習（全体像の把握）	岩本
第 8 回	演習まとめ(バイタル・感染・コミュ)	髙内	第 23 回	専門職連携（オリエンテーション）	宮尾
第 9 回	作業療法評価法演習(ROM 測定)	岩本	第 24 回	専門職連携（模擬カンファレンス）	宮尾
第 10 回	作業療法評価法演習(MMT)	岩本	第 25 回	専門職連携（各専門職の特徴）	岩本
第 11 回	演習まとめ(ROM 測定・MMT)	岩本	第 26 回	専門職連携（各専門職の役割）	岩本
第 12 回	作業療法評価法演習(ﾌﾞﾙﾝｽﾄﾛｰﾑｽﾃｰｼﾞ)	岩本	第 27 回	専門職連携（グループ発表①）	宮尾
第 13 回	演習まとめ(ﾌﾞﾙﾝｽﾄﾛｰﾑｽﾃｰｼﾞ)	岩本	第 28 回	専門職連携（グループ発表②）	岩本
第 14 回	作業療法評価法演習(FIM)	髙内	第 29 回	特別講義：評価について	岩本
第 15 回	演習まとめ(FIM)	髙内	第 30 回	特別講義：実習に向けて	宮尾

成績評価の方法 [評価項目と割合]	小テスト 50%、レポート 50%
準備学習	様々な領域において必要になる知識・技能である。関連講義の資料を復習しておくこと。
事後学習	配布資料から復習しておくこと
教科書	能登 真一・山口 昇 他 編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第 4 版」医学書院　その他資料配布
参考書	必要に応じて提示する。
オフィスアワー	宮尾：木曜日の 12：30～13：00、職員室　　メールアドレス：miyao@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	実際の対象者を想定しながら演習を行う。教員の臨床経験をもとに指導を実施する。

授業科目	臨床実習指導Ⅳ	科目担当者	髙内志保 油田あゆみ 宮尾京介 岩本 凌 上原佳代 後藤一樹
学年	3 年	学期/時間数	前期 / 60 時間
授業形態	☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	①　評価実習および総合臨床実習前後のオリエンテーション、事前学習を行う。 ②　実習経験をレジュメにまとめ、実習終了後に振り返りを実施する。 ③　実習経験の集大成として、総合臨床実習終了後にポスター発表を行う。 ①～③について、教員が各学生を担当し、指導する。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☑ディスカッション　☑プレゼンテーション ☐その他(　　)		
到達目標	① 臨床実習に必要な心構えを学び、臨床実習に向けた準備ができる。 ② 臨床実習の事前学習として、各領域で必要となる基礎知識と技能を修得する。 ③ 評価実習・総合臨床実習の経験を報告することができる。 ④ 発表テーマに沿った先行研究・参考文献等を探し、根拠に基づく作業療法を意識したポスター発表ができる。		

授 業 計 画	内　　容		
第 1 回	評価実習 オリエンテーション	第 16 回	ポスター発表 オリエンテーション
第 2 回	評価実習 事前学習（疾患の特徴）	第 17 回	ポスター発表 抄録作成
第 3 回	評価実習 事前学習（評価技能）	第 18 回	ポスター発表 抄録作成
第 4 回	評価実習 振り返り準備	第 19 回	ポスター発表 抄録作成
第 5 回	評価実習 振り返り	第 20 回	ポスター発表 抄録作成
第 6 回	総合臨床実習 1 オリエンテーション	第 21 回	ポスター発表 抄録作成
第 7 回	総合臨床実習 1 事前学習（疾患の特徴）	第 22 回	ポスター発表 抄録作成
第 8 回	総合臨床実習 1 事前学習（評価技能）	第 23 回	ポスター発表 ポスター作成
第 9 回	総合臨床実習 1 事前学習（疾患別 OT）	第 24 回	ポスター発表 ポスター作成
第 10 回	総合臨床実習 1 情報交換会	第 25 回	ポスター発表 ポスター作成
第 11 回	総合臨床実習 1 情報交換会	第 26 回	ポスター発表 ポスター作成
第 12 回	総合臨床実習 2 オリエンテーション	第 27 回	ポスター発表 ポスター作成
第 13 回	総合臨床実習 2 事前学習（疾患の特徴）	第 28 回	ポスター発表 発表準備
第 14 回	総合臨床実習 2 事前学習（評価技能）	第 29 回	ポスター発表 発表会
第 15 回	総合臨床実習 2 事前学習（疾患別 OT）	第 30 回	ポスター発表 発表会
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	ポスター発表および内容 40%、抄録提出および内容 30%、課題提出および内容 30%		
準備学習	報告会・ポスター発表では抄録フォーマットやポスター発表の作成要領を確認してください。		
事後学習	報告会やポスター発表会時にアドバイスや指摘を受けた内容について、振り返りを行いましょう。		
教科書	臨床実習録（【第 1 回 評価実習 オリエンテーション】時に配布） ポスター発表 作成要領およびアウトライン（【第 19 回 ポスター発表 オリエンテーション】時に配布）		
参考書			
オフィスアワー	岩本　木曜日の 12：10～12：45、職員室　　メールアドレス：iwamoto@tohaya.ac.jp		
教員の実務経験	作業療法士		
実務経験を活かした教育内容	各教員の専門領域における知識と経験をもとに，臨床実習に必要となる知識・技能の修得に向けた学修支援を行う。 また、報告会やポスター発表会では抄録作成の方法や文献検索などを教授する。		

授業科目	作業療法管理学	科目担当者	宮尾 京介
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	☑ 講義　☐ 演習　☐ 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	作業療法を実践するにあたり必要となる資源（人、物、金、知識など）を適切に用いるための計画、実行、統制について講義する。 また、「作業療法士の職業倫理」や作業療法を実践する中での「様々なリスク管理」、「多職種連携の重要性」について講義する。 アクティブラーニング　☐グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	①リハビリテーションにおける「管理」の重要性を理解する。 ②作業療法士に関連する法制度（医療保険制度、介護保険制度など）の理解を深める。 ③組織（病院・介護保険関連施設）における作業療法士の業務と役割について理解する。 ④作業療法士に求められる職場管理・リスクマネジメントを理解する。 ⑤チーム医療・多職種連携の重要性を理解する。 ⑥作業療法教育に必要な能力を培うとともに、職業倫理を高める態度を養う。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	リハビリテーションにおける管理
第 2 回	各組織と関連法規の基礎知識
第 3 回	作業療法士の職業倫理
第 4 回	リスク管理①（医療安全）
第 5 回	リスク管理②（ハラスメント・健康管理）
第 6 回	組織における作業療法士の役割と理解
第 7 回	作業療法業務におけるマネジメント①（人・モノ・経済性のマネジメント）
第 8 回	作業療法業務におけるマネジメント②（情報・時間のマネジメント）
第 9 回	作業療法と医療サービス
第 10 回	社会保障制度（医療・介護・福祉）
第 11 回	多職種連携
第 12 回	チームマネジメント
第 13 回	卒前教育（臨床実習）
第 14 回	卒後教育とキャリア形成
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	定期試験（筆記）80%、レポート or 課題 20%
準備学習	「障害と福祉」や「地域作業療法学」で学習した社会保障制度について復習しておいてください。
事後学習	各授業もしくは、まとめ（第 15 回）で示す重要ポイントを復習しておいてください。
教科書	大庭 潤平　編著：「作業療法管理学 第 3 版」医歯薬出版
参考書	斉藤 秀之・他　編：「リハビリテーション管理学」医学書院 澤田 辰徳・他　編：「作業で結ぶマネジメント」医学書院 元廣 惇 著：「セラピストのキャリアデザイン」三輪書店
オフィスアワー	木曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：miyao@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	作業療法士としての臨床経験とマネジメント研究科での知識を踏まえ、作業療法士に求められる「管理」について講義する。

授業科目	作業療法評価法総論	科目担当者	上原 佳代・宮尾 京介
学年	1 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	☑ 講義　☐ 演習　☐ 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	作業療法評価の目的や意義、そして評価を実施するうえで必要とされる態度や知識について学習する。 また、作業療法が提供されるまでの一連の過程について学習する。 各評価の学習理解度を確認するため、小テストを実施する。		
	アクティブラーニング　☐グループワーク　☑ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	①作業療法評価の意味・必要性を理解し、説明することができる。 ②作業療法が提供されるまでの過程を理解することができる。 ③作業療法における主要な評価を理解し、説明することができる。		

授 業 計 画	内　　容	
第 1 回	評価の意味と目的	宮尾
第 2 回	評価の時期と流れ	宮尾
第 3 回	評価の記録方法	宮尾
第 4 回	行動評価と面接評価（COPM）	宮尾
第 5 回	ランドマーク・触診（触診の方法）	宮尾
第 6 回	ランドマーク・触診（顔・頸部体幹・上肢）	宮尾
第 7 回	ランドマーク・触診（下肢）	宮尾
第 8 回	形態測定（意義と目的）	宮尾
第 9 回	形態測定（四肢長と周径）	宮尾
第 10 回	関節可動域（ROM）測定　概論	上原
第 11 回	関節可動域（ROM）測定　上肢	上原
第 12 回	関節可動域（ROM）測定　下肢	上原
第 13 回	関節可動域（ROM）測定　肩甲帯・頚部・体幹	上原
第 14 回	上肢機能検査（STEF）	上原
第 15 回	まとめ	上原
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	小テスト 40%、定期試験（筆記）60%	
準備学習	本講義では骨や筋などの人体構造を理解しておく必要があります。 解剖学や運動学の教科書で予習・復習しておきましょう。	
事後学習	各授業もしくは、まとめ（第 15 回）で示す重要ポイントを復習しておいてください。	
教科書	能登真一 他　著：「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第 4 版」医学書院	
参考書	その他専門書及び文献（随時紹介）	
オフィスアワー	宮尾　木曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：miyao@tohaya.ac.jp 上原　火曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：uehara@tohaya.ac.jp	
教員の実務経験	各教員が各々の専門領域（身体障害、高齢期障害、地域など）で十分な臨床経験を有している。	
実務経験を活かした教育内容	各教員の臨床経験をもとに、根拠に基づく作業療法を提供するための基礎となる評価の意義や目的、更には主要な評価方法について講義する。	

授業科目	作業療法基礎評価法	科目担当者	上原　佳代
学年	1 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	身体障害領域において疾患・障害を問わず行われる、共通の基礎的な評価について学ぶ。 基礎技法について、デモンストレーションを行い、ディスカッションしながら理解を進めていく。 実技を繰り返し行い、必要な基礎的手技を身につける。		
	アクティブラーニング　☐グループワーク　☑ディスカッション　☐プレゼンテーション ☑その他（　実技演習　）		
到達目標	①基礎的な評価の意義と目的を述べることができる。 ②基礎的な評価を列挙し、その測定法について説明することができる。 ③基礎的な評価に必要な物品や環境を設定できる。 ④基礎的な評価を実施できる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	評価技法　徒手筋力検査法　総論
第 2 回	評価技法　徒手筋力検査法　肩甲帯　（実技演習）
第 3 回	評価技法　徒手筋力検査法　上肢　（実技演習）
第 4 回	評価技法　徒手筋力検査法　手指　（実技演習）
第 5 回	評価技法　徒手筋力検査法　下肢　（実技演習）
第 6 回	評価技法　徒手筋力検査法　体幹・頸部（実技演習）
第 7 回	評価技法　徒手筋力検査法　まとめ　（実技演習）
第 8 回	評価技法　感覚検査　総論
第 9 回	評価技法　感覚検査　各種検査　（実技演習）
第 10 回	評価技法　筋緊張検査　（実技演習）
第 11 回	評価技法　反射検査　（実技演習）
第 12 回	評価技法　バランス検査　（実技演習）
第 13 回	評価技法　協調性検査　（実技演習）
第 14 回	評価技法　脳神経検査　（実技演習）
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験（筆記）60%、中間試験（実技）20%、課題遂行 20%
準備学習	与えられた課題に関しては予習をし、講義に臨んでください。
事後学習	実技演習した内容は学生同士で必ず復習し、その都度理解していきましょう。
教科書	能登 真一・他　編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第 4 版」医学書院 津山 直一・中村 耕三　訳：「新・徒手筋力検査法　原著第 10 版」協同医書出版社
参考書	田崎 義昭・他　著：「ベッドサイドの神経の診かた　改訂第 18 版」南山堂 日本作業療法士協会　監修：「作業療法学全書改訂第 3 版第 3 巻　作業療法評価学」協同医書出版社
オフィスアワー	火曜日の 12:10～13:00、教員室　　メールアドレス uehara@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	作業療法領域共通の基礎的な評価法について、実技を交えながら授業を行う。

授業科目	作業療法評価法身体領域	科目担当者	油田あゆみ・宮尾京介・岩本凌
学年	1 年	学期/時間数	後期　/　45 時間
授業形態	☑ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	身体領域疾患の症状・障害について理解する。その理解をもとに身体領域疾患の評価法について学ぶ。 身体領域疾患に対する評価の技術を身につける。 グループディスカッションを行い、評価法や評価技術に関する理解を深める。 アクティブラーニング　☑グループワーク　☑ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他(　　)		
到達目標	①身体領域疾患の症状や障害に合わせた評価項目を列挙することができる。 ②身体領域疾患に必要な評価の意義と目的を述べることが出来る。 ③評価の技術と測定結果から障害の程度を解釈することができる。		

授 業 計 画	内　　容		
第 1 回	総論 脳血管疾患の症状と障害について	第 16 回	整形疾患（下肢・体幹）の機能評価
第 2 回	脳血管疾患の評価①身体機能評価	第 17 回	呼吸器疾患の症状と障害、画像評価
第 3 回	脳血管疾患の評価②精神機能評価	第 18 回	呼吸器疾患の評価①ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ　（演習）
第 4 回	脳血管疾患の評価③ADL 評価、画像評価（演習）	第 19 回	呼吸器疾患の評価②機能評価　（演習）
第 5 回	脊髄損傷の症状と障害について	第 20 回	代謝性疾患の症状と障害の評価
第 6 回	脊髄損傷の評価①画像・身体機能評価　（演習）	第 21 回	関節リウマチの症状と障害の評価
第 7 回	脊髄損傷の評価②ADL・社会参加の評価（演習）	第 22 回	神経筋疾患の症状と障害の評価
第 8 回	心疾患の症状と障害、画像評価	第 23 回	まとめ
第 9 回	心疾患の評価（演習）		
第 10 回	パーキンソン病の症状と障害		
第 11 回	パーキンソン病の身体機能評価　（演習）	【担当】	
第 12 回	パーキンソン病の評価時の留意事項	岩本	第 1 回-第 4 回、第 17 回-第 20 回
第 13 回	整形疾患の症状と障害	油田	第 5 回-第 9 回、第 21 回
第 14 回	整形疾患の画像評価	宮尾	第 10 回-第 16 回、第 22 回、第 23 回
第 15 回	整形疾患（上肢）の機能評価　（演習）		

成績評価の方法 [評価項目と割合]	課題・小テスト 20%、定期試験（筆記）80%
準備学習	教科書、参考書を予習に利用し積極的に取り組んでおくこと
事後学習	講義資料と教科書を復習しておくこと
教科書	岩﨑 テル子 編：「標準作業療法学 身体機能作業療法学第 4 版」医学書院 能登 真一 他 編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第 4 版」医学書院
参考書	医療情報科学研究所 編：「病気がみえる vol.7 脳・神経第 2 版」メディックメディア
オフィスアワー	油田　木曜日の 12：10～13：00、職員室　メールアドレス：yuda@tohaya.ac.jp 宮尾　木曜日の 12：10～13：00、職員室　メールアドレス：miyao@tohaya.ac.jp 岩本　金曜日の 12：10～13：00、職員室　メールアドレス：iwamoto@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	身体領域における作業療法の代表的な対象疾患を学習点とし、身体領域を専門とした教員により、疾患別作業療法評価法について講義する。

授業科目	作業療法評価法精神領域	科目担当者	後藤　一樹
学年	1 年	学期/時間数	後期　/　30 時間
授業形態	☑ 講義　☐ 演習　☐ 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	精神障害領域に必要な作業療法評価について学ぶ。対象者の生活像を包括的に評価し作業療法推論ができるように、理論やそれに基づいた構成的評価を学習していく。また、疾患に応じた精神状態も評価できるように観察視点や評価法を学んでいく。またこれらは、講義やグループワークを通じて臨床現場での実践の意識を高めていく。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他(　　)		
到達目標	①　精神科作業療法で用いられる構成的、非構成的な評価を学習し説明できる。 ②　精神科領域に関連する作業療法評価の視点を学び、作業療法士の役割を考えられる。 ③　精神科作業療法評価の実践能力に必要な知識を身に付けることができる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	精神科作業療法における評価、総論①精神科作業療法で活用できる作業療法理論
第 2 回	精神科作業療法における評価、総論②神科作業療法で活用できる作業療法理論を用いた評価
第 3 回	精神科作業療法の構成的評価の実践　ACIS
第 4 回	精神科作業療法の構成的評価の実践　興味、役割
第 5 回	精神科作業療法の構成的評価の実践　OQ
第 6 回	精神科作業療法の構成的評価の実践　VQ
第 7 回	精神科作業療法の構成的評価の実践　OSA
第 8 回	精神科作業療法の構成的評価の実践　OSA の演習
第 9 回	精神科作業療法の構成的評価の実践　精神障害領域における作業機能障害について
第 10 回	精神科作業療法の構成的評価の実践　精神障害領域における作業機能障害の評価
第 11 回	精神科作業療法の構成的評価の実践　CMOP-E と COPM①評価の歴史と背景理論
第 12 回	精神科作業療法の構成的評価の実践　CMOP-E と COPM②評価法の実際
第 13 回	精神科作業療法の構成的評価の実践　生活機能の評価：LASMI、ISDA、Rehab
第 14 回	精神科作業療法の非構成的評価の実践　精神機能の評価：統合失調症と気分障害等の評価について
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	レポート 20%　定期試験（筆記）80%
準備学習	講義前に教科書の学習範囲を熟読しておくこと
事後学習	講義資料は講義回ごとにファイルにとじ、インデックスをつける等の工夫をすることで、講義の資料が後からでも把握できるように整理してください。授業後に講義資料および参考書を用いて復習してください。
教科書	早坂友成・他　編著：「精神科リハビリテーション評価法ハンドブック」　中外医学社
参考書	
オフィスアワー	金曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：k-gotou@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	作業療法士として精神科領域での勤務の経験を基に実践に即した講義を行う。

授業科目	作業療法評価法発達領域	科目担当者	油田　あゆみ・髙内　志保
学年	1 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	作業療法を実践する上で基礎となる知識を学習する。 対象児の臨床像を把握し、治療を適切なものにするための評価の意義および、代表的発達検査を学ぶ。座学と、学生自身が理解したことをプレゼンテーションすることを課題とし専門用語などの知識を深める。 子どもの発達像をもっとも反映する『遊び』の意味を知り、子供の保育場面を実際に観察することで、発達過程を学んでゆく。		
	アクティブラーニング　☐グループワーク　☐ディスカッション　☑プレゼンテーション ☐その他(　　)		
到達目標	①典型的発達の過程を理解できる。 ②発達検査の意義と目的を説明できる。 ③発達検査の使用方法が分かる。 ④発達障害における作業療法の基礎的手段としてのあそびの意義と活用について理解することができる。		

授 業 計 画	内　　容	
第 1 回	発達障害概論	油田
第 2 回	発達障害の作業療法の基礎となる知識	油田
第 3 回	典型的発達指標（演習：姿勢反射・反応）	油田
第 4 回	典型的発達指標（演習：運動発達）	油田
第 5 回	典型的発達指標（演習：上肢機能の発達）	油田
第 6 回	典型的発達指標(言語，社会性の発達)	油田
第 7 回	発達検査（演習：スクリーニング検査、知能検査、ADL、疾患別）	油田
第 8 回	子どもの発達とあそび	髙内
第 9 回	子どもの発達とあそび（演習）	髙内
第 10 回	評価としてのあそびの可能性	髙内
第 11 回	あそびの分析（演習）	髙内
第 12 回	おもちゃと遊具（演習）	髙内
第 13 回	幼稚園（演習）　～ 子どもとあそび（年少・年中）	髙内
第 14 回	幼稚園（演習）　～ 子どもとあそび（年長・フィードバック）	髙内
第 15 回	まとめ	髙内
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験（筆記）90%、課題 10%	
準備学習	前回の講義内容を復習し、講義に臨みましょう。	
事後学習	講義終了時に理解できなかったところは質問を行いその都度解決しておきましょう。	
教科書	上杉 雅之 監修：「イラストでわかる人間発達学」医歯薬出版 能登 真一・他　編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第 3 版」医学書院	
参考書	岩崎 清隆　著：「発達障害の作業療法 基礎編 第 2 版」および　同「実践編」三輪書店	
オフィスアワー	油田　木曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：yuda@tohaya.ac.jp 髙内　水曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp	
教員の実務経験	作業療法士	
実務経験を活かした教育内容	典型発達の基礎知識・発育相談の臨床経験をもとに、発達の個別性を尊重する視点を育てる。	

授業科目	動作分析学	科目担当者	岩本　凌
学年	2 年	学期/時間数	後期　/　30 時間
授業形態	☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	ヒトの動きに関する、正常動作の基礎知識を学び、動作分析について理解できる。 グループ毎に、各動作の動作分析を実施する。 動作分析した内容をレポートにまとめ、フィードバックを受ける。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☑ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	①動作分析の方法（観察評価・三次元動作解析装置等）を理解できる。 ②動作分析に必要な知識・技術を身につけることができる。 ③正常動作パターンを理解し、評価することができる。 ④実際に動作分析を行い、結果の解釈ができる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	動作分析学　総論
第 2 回	姿勢と動作の関係性
第 3 回	姿勢分析①姿勢の評価について
第 4 回	姿勢分析②分析演習
第 5 回	基本動作の動作分析：寝返りについて
第 6 回	基本動作の動作分析：寝返りの分析演習
第 7 回	基本動作の動作分析：起き上がりについて
第 8 回	基本動作の動作分析：起き上がりの分析演習
第 9 回	基本動作の動作分析：起立について
第 10 回	基本動作の動作分析：起立の分析演習
第 11 回	基本動作の動作分析：着座について
第 12 回	基本動作の動作分析：着座の分析演習
第 13 回	基本動作の動作分析：歩行について
第 14 回	基本動作の動作分析：歩行の分析演習
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	レポート・小テスト 20%、定期試験（筆記）80%
準備学習	運動学、解剖学を基に学習していく。講義前の復習をしておくこと。
事後学習	配布資料の復習をしておくこと。
教科書	石井 慎一郎 著：「動作分析 臨床活用講座」メジカルビュー社　　その他、配布資料
参考書	中村 隆一・斉藤 宏 著：「基礎運動学第 6 版」医歯薬出版
オフィスアワー	金曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：iwamoto@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	身体疾患を対象とした臨床経験から、正常から異常動作のパターンを分析できる観察力を修得できるように講義を行う。

授業科目	作業療法身体領域Ⅰ	科目担当者	宮尾　京介・油田　あゆみ
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 45 時間
授業形態	☑ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	作業療法の身体領域における代表的疾患について、病態や障害像を理解し、リスク管理に配慮した評価から作業療法プログラムを学ぶ。各疾患の概要から作業療法実施までの一連の流れを学んだ後、グループディスカッションを行い、理解を深める。施設見学ではリハビリテーションにおける作業療法の援助の実際を知る。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☑ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	①疾患ごとの障害特性について説明できる ②疾患ごとの予後について説明できる ③疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる		

授 業 計 画	内　　容			
第 1 回	神経筋疾患（PD）の概要	宮尾	第 16 回	関節リウマチの概要　油田
第 2 回	神経筋疾患（PD）の評価	宮尾	第 17 回	関節リウマチの評価　油田
第 3 回	神経筋疾患（PD）の生活障害	宮尾	第 18 回	関節リウマチの目標設定　油田
第 4 回	神経筋疾患（PD）の生活支援	宮尾	第 19 回	関節リウマチのプログラム　油田
第 5 回	神経筋疾患（PD）の OT	宮尾	第 20 回	心疾患の概要　油田
第 6 回	神経筋疾患（ALS）概要	宮尾	第 21 回	心疾患の評価　油田
第 7 回	神経筋疾患（ALS）OT	宮尾	第 22 回	心疾患の目標設定とプログラム　油田
第 8 回	神経筋疾患（その他の疾患）	宮尾	第 23 回	まとめ　油田
第 9 回	脊髄損傷の概要	油田		
第 10 回	脊髄損傷の評価/目標設定	油田		
第 11 回	脊髄損傷の急性期でのプログラム	油田	講義	第 1 回、第 3 回～第 7 回、第 8 回～第 13 回
第 12 回	脊髄損傷の回復期でのプログラム	油田		第 16 回～第 18 回、第 20 回～第 23 回
第 13 回	脊髄損傷の社会復帰期でのプログラム	油田	演習	第 2 回、第 7 回、第 10 回、第 13 回、第 14 回、
第 14 回	脊髄損傷者の援助の実際（施設見学）	油田		第 15 回、第 18 回、第 19 回
第 15 回	脊髄損傷者の援助の実際（施設見学）	油田		
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	定期試験（筆記）90%、課題 10%			
準備学習	1 年生後期の作業療法評価法身体領域の内容を復習して臨みましょう			
事後学習	教科書や配布資料の内容を理解できるよう整理しておきましょう。			
教科書	矢谷 玲子 監修：「標準作業療法学　身体機能作業療法学　第 4 版」　医学書院. 医療情報科学研究所 編：「病気がみえる〈vol. 7〉脳・神経　第 2 版」　メディックメディア.			
参考書	能登　真一　編：「標準作業療法学　作業療法評価学　第 3 版」　医学書院			
オフィスアワー	宮尾　木曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：miyao@tohaya.ac.jp 油田　木曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：yuda@tohaya.ac.jp			
教員の実務経験	作業療法士			
実務経験を活かした教育内容	臨床で担当する機会の多い各疾患の病態、評価、基本的な治療計画からアプローチまでを実践を踏まえ講義する。			

授業科目	作業療法身体領域Ⅱ	科目担当者	岩本 凌
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 45 時間
授業形態	☑ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	作業療法身体領域における代表的な疾患について、病態や障害像を理解し、評価から実施までの一連の流れと治療・指導・援助、リスク管理について授業・グループディスカッションを行い、理解を深めることを目的とする。		
	アクティブラーニング　☐グループワーク　☑ディスカッション　☐プレゼンテーション　☐その他（　　）		
到達目標	①身体障害を中心とした疾患の病態、障害像を理解し、説明することができる。 ②身体障害を中心とした疾患のリスクを理解できる。 ③各疾患における評価方法について理解し、実施することができる。 ④各疾患の症状と生活を捉え、介入や支援方法を考え、理解できる。 ⑤喀痰の吸引を実施することができる。		

授 業 計 画	内　　容		
第 1 回	身体領域に対する OT の考え方	第 16 回	呼吸器疾患：吸引（**演習**）
第 2 回	関節可動域/筋力/筋緊張異常の評価	第 17 回	代謝性疾患(DM)の概要
第 3 回	脳血管疾患の概要	第 18 回	代謝性疾患(DM)の評価および OT
第 4 回	脳血管疾患の評価/目標設定	第 19 回	悪性腫瘍の概要
第 5 回	脳血管障害の急性期について	第 20 回	悪性腫瘍の評価
第 6 回	脳血管障害の回復期について	第 21 回	悪性腫瘍の OT①
第 7 回	脳血管障害の生活期について	第 22 回	悪性腫瘍の OT②
第 8 回	脳血管障害の OT	第 23 回	まとめ
第 9 回	骨・関節疾患の概要	第 24 回	
第 10 回	上肢骨折（代表的な骨折）の概要	第 25 回	
第 11 回	上肢骨折（代表的な骨折）の OT	第 26 回	
第 12 回	下肢骨折（代表的な骨折）の概要	第 27 回	
第 13 回	下肢骨折（代表的な骨折）の OT	第 28 回	
第 14 回	呼吸器疾患の概要	第 29 回	
第 15 回	呼吸器疾患の評価および OT	第 30 回	

成績評価の方法 ［評価項目と割合］	定期試験（筆記）90%、小テストおよび課題 10%
準備学習	今まで学習してきた疾患の特性や作業療法評価や基礎作業学について復習しておきましょう。
事後学習	各授業もしくはまとめ（第 15 回）で伝える重要ポイントを復習しておいてください。
教科書	矢谷 玲子　監修：「標準作業療法学　身体機能作業療法学 第 4 版」医学書院 医療情報科学研究所　編：「病気がみえる vol.7 脳・神経　第 2 版」メディックメディア
参考書	その他専門書及び文献（適宜紹介）
オフィスアワー	岩本　木曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：iwamoto@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	各教員が各々の専門領域（身体障害、高齢期障害、地域など）で十分な臨床経験を有している。
実務経験を活かした教育内容	各教員の臨床経験をもとに身体領域における作業療法の代表的な対象疾患を学習点とし、疾患の概要の理解と疾患別作業療法（評価から治療までの一連の過程）について講義する。

授業科目	作業療法精神領域Ⅰ	科目担当者	後藤　一樹
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	☑ 講義　☐ 演習　☐ 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	精神科作業療法における歴史、精神科作業療法を理解していく。 本授業ではこれらの知識をもとに国家試験や実際の臨床現場で関わることの多い疾患に着目し、疾患別の作業療法について講義およびグループワークを通じて学習していく。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	⑲　精神科作業療法の歴史を理解する ⑳　疾患別の精神科作業療法を学び、クライエントの障害に応じた作業療法をイメージすることができる。 21　精神障害者が抱える作業機能障害について理解する。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	精神科作業療法の総論①精神科医療について
第 2 回	精神科作業療法の総論②精神科領域の作業療法について
第 3 回	精神科作業療法の評価について
第 4 回	疾患別作業療法：統合失調症の回復過程における作業療法①医学的知識
第 5 回	疾患別作業療法：統合失調症の回復過程における作業療法②評価と作業療法の実際
第 6 回	疾患別作業療法：長期入院の統合失調症における作業療法
第 7 回	疾患別作業療法：パーソナリティ障害における作業療法①医学的知識
第 8 回	疾患別作業療法：パーソナリティ障害における作業療法②評価と作業療法の実際
第 9 回	疾患別作業療法：気分障害における作業療法①医学的知識
第 10 回	疾患別作業療法：気分障害における作業療法②評価と作業療法の実際
第 11 回	疾患別作業療法：アルコール依存症における作業療法①医学的知識
第 12 回	疾患別作業療法：アルコール依存症における作業療法②評価と作業療法の実際
第 13 回	疾患別作業療法：神経症性障害における作業療法①医学的知識
第 14 回	疾患別作業療法：神経症性障害における作業療法②評価と作業療法の実際
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	定期試験（筆記）100％
準備学習	講義前に教科書の学習範囲を熟読しておくこと
事後学習	講義資料は講義回ごとにファイルにとじ、インデックスをつける等の工夫をすることで、講義の資料が後からでも把握できるように整理してください。授業後に講義資料および参考書を用いて復習してください。
教科書	堀田英樹　編著：「精神疾患の理解と精神科作業療法　第 3 版」中央法規出版株式会社
参考書	
オフィスアワー	金曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：k-gotou@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	作業療法士として精神科領域での勤務の経験を基に実践に即した講義を行う。

授業科目	作業療法精神領域Ⅱ	科目担当者	後藤　一樹
学年	2 年	学期/時間数	後期/30 時間
授業形態	☑ 講義　☐ 演習　☐ 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	精神科作業療法の実践について学ぶ。作業療法精神領域Ⅰに引き続き、国家試験や臨床現場で関わることの多い疾患の作業療法を学習していく。また、精神科作業療法に求められる理論および実践や推論について、講義やグループワークを通じて理解を深めていく。これまで学んだ知識を基に評価、疾患別の作業療法の応用を学ぶ。 アクティブラーニング　☑グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション　☐その他（　　）		
到達目標	22　疾患別の精神科作業療法を学び、クライエントの障害に応じた作業療法をイメージできる。 23　模擬的にクライエントに対して作業療法プログラムを立案することができる。 24　評価や情報収集をもとに模擬的な作業療法の実践ができる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	疾患別作業療法：摂食障害における作業療法
第 2 回	疾患別作業療法：てんかんにおける作業療法
第 3 回	疾患別作業療法：小児期および青年期に通常発達する行動・情動の障害における作業療法①医学的知識
第 4 回	疾患別作業療法：小児期および青年期に通常発達する行動・情動の障害における作業療法②評価と作業療法の実際
第 5 回	精神科作業療法におけるリーズニング
第 6 回	認知行動療法について
第 7 回	SST について
第 8 回	模擬実習①症例提示
第 9 回	模擬実習②評価内容の検討
第 10 回	模擬実習③ICF の作成
第 11 回	模擬実習④全体像の把握
第 12 回	模擬実習⑤作業療法における対象とすべき課題の焦点化
第 13 回	模擬実習⑥プログラム立案
第 14 回	模擬実習⑦考察
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	課題 30%　定期試験（筆記）70%
準備学習	講義前に教科書の学習範囲を熟読しておくこと
事後学習	講義資料は講義回ごとにファイルにとじ、インデックスをつける等の工夫をすることで、講義の資料が後からでも把握できるように整理してください。授業後に講義資料および参考書を用いて復習してください。
教科書	山口芳文・他　編：「作業療法学　ゴールド・マスター・テキスト　精神障害作業療法学(第３版)」メジカルビュー社
参考書	
オフィスアワー	金曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：k-gotou@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	作業療法士として精神科領域での勤務の経験を基に実践に即した講義を行う。

授業科目	作業療法発達領域Ⅰ	科目担当者	髙内　志保
学年	2 年	学期/時間数	前期 ／ 30 時間
授業形態	☑ 講義　☐ 演習　☐ 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	作業療法の対象となる代表的発達障害領域における、作業療法アプローチの基礎を学ぶ。 また、それらを生活障害の視点からとらえ、こどもの生活を支援する作業療法士の基本的視点を学ぶ。		
	アクティブラーニング　☐グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	発達の各領域における作業療法の概要を理解できる。 子ども生活の場を具体的に理解できる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	発達障害に対する作業療法概論
第 2 回	感覚統合機能と評価
第 3 回	感覚統合機能に対するアプローチ
第 4 回	発達障害の特徴と介入のポイント
第 5 回	姿勢・運動発達とその背景
第 6 回	姿勢と移動の援助：痙直型脳性麻痺
第 7 回	姿勢と移動の援助：アテトーゼ型脳性麻痺・重症心身障害
第 8 回	姿勢と移動の援助：訓練用具の使い方
第 9 回	進行性筋ジストロフィー
第 10 回	知的障害
第 11 回	摂食嚥下障害
第 12 回	二分脊椎
第 13 回	てんかん
第 14 回	特別支援教育
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	定期試験（筆記）　90%　レポート課題　10%
準備学習	教科書を読んできましょう。そうすることで講義への関心が高まります。
事後学習	配布プリントは毎回、ファイルにきちんととじていくようにしましょう。
教科書	長﨑 重信 監修：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学改訂第 3 版」メジカルビュー社
参考書	岩崎 清隆　著：「発達障害の作業療法 基礎編第 2 版」三輪書店 岩崎 清隆　著：「発達障害の作業療法 実践編第 2 版」三輪書店
オフィスアワー	水曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	知的障害者施設等での臨床経験をもとに発達期の生活障害を支援する視点を伝える。

授業科目	作業療法発達領域Ⅱ	科目担当者	岩下 範子・曽根川達司 林　いずみ
学年	2 年	学期/時間数	後期/30 時間
授業形態	☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	発達に障害を持つ対象者の特性、評価法、作業療法について講義、演習を行う。 スライド、VTR 等を使用して症例の評価、価値どう分析を行う。評価結果に基づいてアセスメントし治療目標を設定する。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☑ディスカッション　☑プレゼンテーション ☑その他（　　）		
到達目標	1） 代表的な小児疾患について、それぞれの発達や機能の特性が理解できる。 2） 代表的な小児の疾患について、必要な評価を学ぶ。 3） 代表的な小児の疾患委について、状態像の分析、治療計画の立案を学ぶ。		

授 業 計 画	内　　容	
第 1 回	発達障害の作業療法評価	担当（曽根川達司）
第 2 回	脳性麻痺児の作業療法評価（基礎）	担当（曽根川達司）
第 3 回	脳性麻痺児の作業療法評価（応用）	担当（曽根川達司）
第 4 回	脳性麻痺児の作業療法（基礎）	担当（曽根川達司）
第 5 回	脳性麻痺児の作業療法（応用）	担当（曽根川達司）
第 6 回	脳性麻痺児の作業療法（実践）	担当（曽根川達司）
第 7 回	重症心身障害児の作業療法　/　摂食障害の作業療法	担当（岩下範子）
第 8 回	知的障害の作業療法	担当（岩下範子）
第 9 回	小児疾患の作業療法（二分脊椎症等）	担当（岩下範子）
第 10 回	小児疾患の作業療法（神経・筋疾患等）	担当（岩下範子）
第 11 回	発達障害児の評価（基礎）	担当（林いずみ）
第 12 回	発達障害児の評価（応用）	担当（林いずみ）
第 13 回	発達障害児の作業療法（課題分析、治療目標の設定）	担当（林いずみ）
第 14 回	発達障害児の作業療法（実践）	担当（林いずみ）
第 15 回	発達障害児の治療の実際（発達性読み書き障害等）	担当（岩下範子）
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	定期試験（筆記）80%、小テスト・レポート 20%	
準備学習	授業の予定に基づいて、教科書等を使った予習の実施	
事後学習	授業後の各自記録や配布資料による復習の実施	
教科書	長﨑 重信 監修：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学改訂第 3 版」メジカルビュー社	
参考書	1 年時使用テキスト 能登真一 他　著：「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第 4 版」医学書院	
オフィスアワー	講義終了後　講師控室　　メールアドレス：kita-reha@tohaya.ac.jp（学院窓口）	

授業科目	作業療法高次脳機能領域	科目担当者	上原　佳代
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	☑ 講義　☐ 演習　☐ 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	脳の神経解剖学の観点から高次脳機能および障害の特徴を学ぶ。 高次脳機能障害を把握するための神経心理学的評価法を学ぶ。 高次脳機能障害の支援・指導・援助の手段について学ぶ。		
	アクティブラーニング　☐グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他(　　)		
到達目標	①高次脳機能に関係する脳のしくみについて、画像情報も活用しながら理解できる。 ②高次脳機能障害によって起こる対象者の生活上の問題を理解し述べることができる。 ③高次脳機能障害に関する作業療法の基礎知識・各種評価法について理解し列挙することができる。 ④高次脳機能障害の支援・指導・援助の手段について計画を立てることができる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	高次脳機能障害総論
第 2 回	脳画像所見の見方（CT・MRI）
第 3 回	注意障害の症状と障害の評価
第 4 回	注意障害の症状と障害に対する支援・指導・援助
第 5 回	記憶障害の症状と障害の評価
第 6 回	記憶障害の症状と障害に対する支援・指導・援助
第 7 回	失認の症状と障害の評価
第 8 回	失認の症状と障害に対する支援・指導・援助
第 9 回	失語症の症状と障害の評価
第 10 回	失語症の症状と障害に対する支援・指導・援助
第 11 回	失行の症状と障害の評価
第 12 回	失行の症状と障害に対する支援・指導・援助
第 13 回	遂行機能障害の症状と障害の評価
第 14 回	遂行機能障害の症状と障害に対する支援・指導・援助
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験（筆記）90%、課題 10%
準備学習	高次脳機能に関連する解剖学的知識について、復習しておきましょう。
事後学習	課題に取り組み、各障害の特徴や評価、介入の基本について理解しましょう。
教科書	長崎重信 監修：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 高次脳機能障害 作業療法学 第 3 版」メジカルビュー社 医療情報科学研究所　編：「病気がみえる vol.7 脳・神経第 2 版」メディックメディア
参考書	渕 雅子　編：「作業療法学全書 改訂第 3 版 第 8 巻 作業療法学 5 高次脳機能障害 〈日本作業療法士協会 監〉」協同医書出版社
オフィスアワー	火曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：uehara@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	脳損傷によって生じる高次脳機能障害について、脳の機能を理解し、障害特性を理解した評価、介入の基礎を講義する。

授業科目	作業療法高齢期領域Ⅰ	科目担当者	宮尾　京介
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	☑ 講義　☐ 演習　☐ 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	「高齢社会」や「高齢者の心身の特性」といった高齢期領域で作業療法を実践するために最低限必要な基礎知識を学習する。また、作業療法実践の基本である人権と尊厳について理解し、高齢期での作業療法の目的と役割について学習する。 また、講義内では高齢期領域における課題等についてグループディスカッションを行い、思考を発展させ、理解を深める学習を行う。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☑ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	①高齢社会および社会制度を理解する。 ②高齢期の特徴を理解する。 ③高齢期の作業療法の目的と役割、評価、実践課程を理解する。 ④介護保険サービス（施設・在宅）の概要と各サービスにおける作業療法の目的や役割を理解する。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	高齢社会
第 2 回	高齢期の課題
第 3 回	高齢者関連の社会制度
第 4 回	高齢期の一般的特徴
第 5 回	高齢期に多い疾患
第 6 回	高齢期作業療法の評価（評価の目的）
第 7 回	高齢期作業療法の評価（初期評価）
第 8 回	高齢期作業療法の評価（情報の統合、目標設定）
第 9 回	高齢期作業療法の実践課程（生活障害へのアプローチ）
第 10 回	高齢期作業療法の実践課程（環境調整）
第 11 回	病期に応じた治療・援助内容の違い
第 12 回	施設サービスにおける作業療法の役割（介護老人保健施設）
第 13 回	在宅サービスにおける作業療法の役割（通所リハビリテーション）
第 14 回	在宅サービスにおける作業療法の役割（訪問リハビリテーション）
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	定期試験（筆記）80%、レポート課題 20%
準備学習	「整形外科学」や「内科学」、「神経内科学」等で学んだ高齢者に多い疾患の基礎知識を復習しておいてください。
事後学習	各授業もしくはまとめ（第 15 回）で伝える重要ポイントを復習しておいてください。
教科書	松房 利憲・他　編：「標準作業療法学専門分野 高齢期作業療法学　第 4 版」医学書院
参考書	浅海 奈津美・守口恭子・他　編：「老年期の作業療法 改訂第 3 版」三輪書店
オフィスアワー	木曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：miyao@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	高齢者をとりまく背景や高齢者の心身の特性、更には施設サービスおよび在宅サービス、介護予防事業での臨床経験をもとに、高齢期領域における作業療法の実践に必要な知識や技術を学修する。

授業科目	作業療法高齢期領域Ⅱ	科目担当者	髙内　志保
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	認知症高齢者と認知症に対する作業療法の役割を理解する。 認知症高齢者に対する評価の目的と方法を学習する。 グループで事例検討を行い、認知症高齢者に対する作業療法の実際を理解する。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☑ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	①認知症の症状を説明できる。 ②主な認知症の特徴を説明できる。 ③各評価の目的と方法について説明できる。 ④認知症の支援や作業療法実践について具体例を挙げて説明できる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	認知症のある人に対する作業療法
第 2 回	認知症を取り巻く社会の歴史と背景
第 3 回	認知症の症状、治療
第 4 回	Alzheimer 型認知症と作業療法
第 5 回	脳血管性認知症、Lewy 小体型認知症と作業療法
第 6 回	前頭側頭型認知症、軽度認知障害と作業療法
第 7 回	認知症の評価（情報収集、面接）　グループワーク
第 8 回	認知症の評価（観察、検査・測定）　グループワーク
第 9 回	認知症の評価（評価のまとめ）　グループワーク
第 10 回	認知機能障害、BPSD に対する作業療法
第 11 回	生活障害に対する作業療法
第 12 回	役割・余暇に対する作業療法と環境調整
第 13 回	事例検討　ディスカッション
第 14 回	事例検討　ディスカッション
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	課題・提出物 30%、定期試験（筆記）70%
準備学習	教科書を読み、分からない言葉の意味を調べる。
事後学習	授業内容を復習して次の授業に参加してください。
教科書	守口恭子・谷川良博　著：「認知症のある人の生活と作業療法　第 3 版」三輪書店
参考書	岡庭 豊　編：「病気がみえる（vol. 7）脳・神経　第 2 版」メディックメディア 能登 真一・他　編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第 3 版」医学書院
オフィスアワー	水曜日の 12：10～13：00、職員室　メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	高齢者をとりまく背景や高齢者の心身の特性、認知症の理解と支援といった高齢者領域での作業療法を実践するための知識や技術を講義する。

授業科目	作業療法治療学演習Ⅰ	科目担当者	宮尾　京介
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	解剖学や生理学などの専門基礎科目、概論や各種評価学、治療学などの専門科目といった、既に学習してきた内容に関して、作業療法の適用に必要な基本知識を復習する。また、国試ベースで求められる内容の知識を学習する。 グループワークを交えて問題演習に取り組む。 適宜小テストを実施し、知識の定着を図る。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	①　既に学習してきた内容に関して、作業療法の適用に必要な専門および基本知識を整理し、理解できる。 ②　国試ベースで求められる内容の知識を理解できる ③　学んだ知識を活用して、基本的な作業療法の適用を理解できる。 ④　問題演習に関して、知識を基に考えることができる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	作業療法治療学の基礎（意識/せん妄）　演習
第 2 回	認知症（症状と特徴）　演習
第 3 回	認知症（評価）　演習
第 4 回	骨関節障害（橈骨と尺骨の骨折）　演習
第 5 回	中枢神経障害（パーキンソン病）　演習
第 6 回	中枢神経障害（多発性硬化症）　演習
第 7 回	神経筋疾患（筋ジストロフィー）　演習
第 8 回	呼吸障害（特徴と生活指導）　演習
第 9 回	循環障害（心不全）　演習
第 10 回	作業療法管理学（職場管理）　演習
第 11 回	作業療法評価学（ROM：上肢）　演習
第 12 回	作業療法評価学（ROM：総合）　演習
第 13 回	作業療法評価学（ADL）　演習
第 14 回	作業療法評価学（Brs）　演習
第 15 回	まとめ　演習
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	小テスト 100％
準備学習	該当する科目の内容について、目を通しておきましょう。課題を提示された場合は講義までにしておきましょう。
事後学習	小テストを実施します。演習内容をしっかり復習しておきましょう。
教科書	各範囲に該当する科目で使用した教科書（随時提示します）
参考書	随時紹介
オフィスアワー	宮尾　木曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：miyao@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	国家試験を解くのに必要な知識の整理と理解を促します。

授業科目	作業療法治療学演習Ⅱ	科目担当者	上原　佳代
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	解剖学や生理学などの専門基礎科目、概論や各種評価学、治療学などの専門科目といった、既に学習してきた内容に関して、作業療法の適用に必要な基本知識を復習する。また、国試ベースで求められる内容の知識を学習する。 グループワークを交えて問題演習に取り組む。 適宜小テストを実施し、知識の定着を図る。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	①　既に学習してきた内容に関して、作業療法の適用に必要な基本知識を整理し、理解できる。 ②　国試ベースで求められる内容の知識を理解できる ③　学んだ知識を活用して、基本的な作業療法の適用を理解できる。 ④　問題演習に関して、知識を基に考えることができる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	作業療法評価学（MMT）上肢　　演習
第 2 回	作業療法評価学（MMT）下肢・体幹　　演習
第 3 回	中枢神経障害（脳血管障害）脳画像　　演習
第 4 回	中枢神経障害（脳血管障害）　　演習
第 5 回	作業療法評価学（高次脳機能）　　演習
第 6 回	高次脳機能障害（症状と徴候）　　演習
第 7 回	地域作業療法学（制度）　　演習
第 8 回	地域作業療法学（就労支援）　　演習
第 9 回	地域作業療法学（福祉用具）　　演習
第 10 回	中枢神経障害（脊損）　　演習
第 11 回	地域作業療法学（住環境）　　演習
第 12 回	義肢装具学（義手）　　演習
第 13 回	義肢装具学（装具）　　演習
第 14 回	その他の障害（熱傷）　　演習
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	小テスト 100％
準備学習	該当する科目の内容について、目を通しておきましょう。課題を提示された場合は講義までにしておきましょう。
事後学習	小テストを実施します。演習内容をしっかり復習しておきましょう。
教科書	各範囲に該当する科目で使用した教科書（提示する）
参考書	随時紹介します。
オフィスアワー	火曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：uehara@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	国家試験を解くのに必要な知識の整理と理解を促します。

授業科目	義肢装具学	科目担当者	上原　佳代
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	☑ 講義　☐ 演習　☐ 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	疾患・障害による生活障害を物理的・精神的に軽減する手段としての義肢・装具の基礎的知識を学ぶ。 装具療法の基礎知識および疾患との適応を学ぶ。		
	アクティブラーニング　☐グループワーク　☑ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	①義肢・装具の構成要素と機能・構造が理解できる。 ②疾患・障害と義肢・装具の適合を説明できる。 ③生活障害を補う義肢・装具療法の意義を理解できる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	義肢装具学概論、義肢総論
第 2 回	義手　総論
第 3 回	義足
第 4 回	ここまでのまとめ
第 5 回	義手を学ぶのに必要な医学的知識
第 6 回	前腕切断と義手
第 7 回	上腕切断と義手
第 8 回	装具総論
第 9 回	疾患・障害別装具/脳血管障害
第 10 回	疾患・障害別装具/脳性麻痺・小児疾患
第 11 回	疾患・障害別装具/手の外科疾患・末梢神経損傷・骨折
第 12 回	疾患・障害別装具/頚髄損傷
第 13 回	疾患・障害別装具/関節リウマチ
第 14 回	疾患・障害別装具/熱傷とスプリント療法・体幹装具
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	定期試験（筆記）90 %、課題・提出物 10%
準備学習	解剖学や各種疾患・障害について、講義内容に沿って復習しておきましょう。
事後学習	義肢・装具には様々な部品や種類がありますが、その適応となる障害と併せて、確実に覚えていきましょう。
教科書	長崎 重信　監修：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 義肢装具学」メジカルビュー社
参考書	髙橋 邦泰・芳賀 信彦　編：「整形外科テキスト 第５版」南江堂 中田 真由美・大山 峰生　著：「作業療法士のためのハンドセラピー入門 第２版」三輪書店
オフィスアワー	火曜日の 12:30～13:00、職員室　　メールアドレス：uehara@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	講師の臨床経験をもとに、義肢装具の適応・構造だけでなく、作業療法士が行う義肢装具のある日常生活支援を講義する。

授業科目	義肢装具学演習	科目担当者	上原　佳代
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	スプリントの作成について、評価、作成、チェックアウトまでを演習する。 義肢装具士による義手のチェックアウト及び操作方法を演習する。 作業療法士の視点から手の外科（ハンドセラピー）の評価及び装具療法について演習する。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☑ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	①装具作成の手順を理解し、作成からチェックアウトまでを実施できる。 ②義手のチェックアウトができる。 ③ハンドセラピーにおける評価を実施できる。 ④解剖学・運動学の基礎知識を基に作業療法士の視点でハンドセラピーの基本を理解できる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	スプリントの製作　講義・演習
第 2 回	スプリントの製作　型紙作成（トレースの練習）
第 3 回	スプリントの製作　型紙作成、仮合わせ
第 4 回	スプリントの製作　熱可塑性樹脂の使い方、スプリント材の裁断
第 5 回	スプリントの製作　モールディング
第 6 回	スプリントの製作　修正、仕上げ
第 7 回	スプリントのチェックアウト
第 8 回	能動義手の操作演習
第 9 回	義手のチェックアウト　講義
第 10 回	義手のチェックアウト　演習
第 11 回	義手のチェックアウト　まとめ
第 12 回	ハンドセラピーと装具療法　講義
第 13 回	ハンドセラピーと装具療法　評価演習
第 14 回	ハンドセラピーと装具療法の実際
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験（筆記）80%、実技（スプリント製作）20%
準備学習	授業の進行に合わせて、前期「義肢装具学」の内容を復習しましょう。
事後学習	解剖・運動学・整形外科学等の基礎知識との関連を意識して、理解していきましょう。 テキストや講義資料の図を正しく把握することを心掛けましょう。
教科書	長崎 重信　監修：「作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 義肢装具学」メジカルビュー社
参考書	髙橋 邦泰・芳賀 信彦　編：「整形外科テキスト 第 5 版」南江堂 中田 真由美・大山 峰生　著：「作業療法士のためのハンドセラピー入門第 2 版」三輪書店
オフィスアワー	火曜日の 12:30～13:00、職員室　　メールアドレス：uehara@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	ベッドサイドで実施する装具療法から義手のチェックアウトまで、一貫して作業療法士の役割を講義してゆく。

授業科目	基礎作業学技術Ⅰ	科目担当者	上原 佳代 ・ 岩本　凌
学年	1 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	作業療法の治療的介入手段として使われる代表的な活動に対し実際に課題作製を行う。課題作製においては計画から実施までグループで協力し合って主体的に行う。課題作製を通じて、作品を完成させることがひとにどのような影響を与えるのかを体験的に学ぶ。各活動の最後には、グループで作業遂行にあたっての必要な要素を振り返り、治療的応用等について討議を行い、各自レポートにまとめる。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション　☐その他（　　）		
到達目標	①作業を活動として用いる対象者について知る。 ②代表的な活動についての手順が説明できる。 ③代表的な活動に必要な物品を準備・管理することができる。 ④代表的な作業の作業分析ができる。 ⑤代表的な作業の治療的活用方法を挙げることができる。 ⑥工程に順じた作品を作成することができる。		
授 業 計 画	内　　容		
第 1 回	スポーツ（車椅子テニス見学）事前学習		岩本
第 2 回	スポーツ（車椅子テニス見学）		岩本
第 3 回	スポーツ（車椅子テニス見学）		岩本
第 4 回	スポーツ（車椅子テニス見学）事後学習		岩本
第 5 回	スポーツ（パラスポーツ ボッチャ）準備		上原
第 6 回	スポーツ（パラスポーツ ボッチャ）体験		上原
第 7 回	作業の実際（施設見学）事前学習		岩本
第 8 回	作業の実際（施設見学）		岩本
第 9 回	作業の実際（施設見学）		岩本
第 10 回	作業の実際（施設見学）事後学習		岩本
第 11 回	革細工（演習）カービング技法でコースターを作成		上原
第 12 回	革細工（演習）カービング技法でコースターを作成		上原
第 13 回	革細工（演習）金具を用いた小物作成		上原
第 14 回	革細工（演習）金具を用いた小物作成		上原
第 15 回	革細工（演習）作業分析　グループ討議		上原
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	作品課題 30%、レポート 70%		
準備学習	予習として各活動に必要な材料・道具および工程を把握する。		
事後学習	各授業もしくは各作業活動のまとめで伝える重要ポイントを復習しておいてください。		
教科書	浅沼 辰志　編集：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業学第 3 版」メジカルビュー社 山根 寛　著：「ひとと作業・作業活動新版」三輪書店		
参考書	その他専門書及び文献（適宜紹介）		
オフィスアワー	上原　火曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：uehara@tohaya.ac.jp 岩本　木曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：iwamoto@tohaya.ac.jp		
教員の実務経験	各教員が各々の専門領域（身体障害・精神障害・高齢期障害など）での十分な臨床経験を有している。		
実務経験を活かした教育内容	臨床で用いる作業活動を実践し、作業の治療的活用について理解する授業を行う。		

授業科目	基礎作業学技術Ⅱ	科目担当者	髙内　志保
学年	1 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	作業療法の治療的介入手段として使われる代表的な活動に対し実際に課題作製を行う。 課題作製においては計画から実施までグループで協力し合って主体的に行う。 課題作製を通じて、作品を完成させることがひとにどのような影響を与えるのかを体験的に学ぶ。 各活動の最後には、グループで作業遂行にあたっての必要な要素を振り返り、治療的応用等について討議を行い、各自レポートにまとめる。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	①代表的な活動についての手順が説明できる。 ②代表的な活動についての必要な物品を準備・管理することができる。 ③代表的な作業の作業分析ができる。 ④代表的な作業の治療的活用を挙げることができる。 ⑤工程に順じた作品を作成することができる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	タイルモザイク（演習）図案企画
第 2 回	タイルモザイク（演習）タイルカット
第 3 回	タイルモザイク（演習）タイル貼り
第 4 回	タイルモザイク（演習）仕上げ　　グループ討議・まとめ
第 5 回	木工（演習）プランニングと製図
第 6 回	木工（演習）材料の選定
第 7 回	木工（演習）部品の加工
第 8 回	木工（演習）組み立て
第 9 回	木工（演習）仕上げと塗装　　グループ討議・まとめ
第 10 回	園芸（演習）計画
第 11 回	園芸（演習）実施
第 12 回	塗り絵（演習）準備・実施
第 13 回	塗り絵（演習）実施
第 14 回	絵手紙（演習）準備・実施
第 15 回	塗り絵・絵手紙　　グループ討議・まとめ
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	作品課題 30%、レポート 70%
準備学習	予習として各活動に必要な材料・道具および工程を把握する。
事後学習	各授業もしくは各作業活動のまとめ（第 6. 11. 15 回）で伝える重要ポイントを復習する。
教科書	浅沼 辰志　編集：「作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 作業学第 3 版」メジカルビュー社
参考書	古川 宏　監：「作業活動実習マニュアル　第 2 版」医歯薬出版
オフィスアワー	水曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	臨床で用いる作業活動を実践し、作業の治療的活用について理解する授業を行う。

授業科目	基礎作業学技術Ⅲ	科目担当者	油田　あゆみ
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	「プラバン」、「国家試験に出題される作業活動」、「陶芸」を実施する。 「国家試験に出題される作業活動」では活動内容の選択及び計画・準備から実施までを、グループで主体的に行う課題作製を通じて、作品を完成させることがひとにどのような影響を与えるのかを体験的に学ぶ。 各活動の最後には、包括的作業分析を行い、治療的応用についてグループで討議を行い、各自レポートを作成する。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☑ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	①作業療法の治療的介入手段として使用される作業活動について、その基本的な準備や手順について説明できる。 ②①に伴う計画、実施、また作業分析ができる。 ③具体的な指導方法、応用方法を挙げることができる。 ④疾患との関連、治療手段としての活用方法を表現することができる。 ⑤工程に順じた作品を作製することができる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	プラバン（演習）図案企画
第 2 回	プラバン（演習）準備
第 3 回	プラバン（演習）実施
第 4 回	作業活動（演習）計画・準備
第 5 回	作業活動（演習）実施
第 6 回	陶芸（演習）活動の特性
第 7 回	陶芸（演習）作業工程
第 8 回	陶芸（演習）練り
第 9 回	陶芸（演習）電動ろくろ
第 10 回	陶芸（演習）玉作り・ひも作り
第 11 回	陶芸（演習）たたら作り
第 12 回	陶芸（演習）素焼き
第 13 回	陶芸（演習）釉掛け
第 14 回	陶芸（演習）本焼き
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	作品課題 20%、レポート 20%、定期試験（筆記）60%、
準備学習	基礎作業学理論で学んだ作業分析の基礎知識の復習をしておきましょう。
事後学習	各活動に必要な材料・道具および工程を把握し、作品作製を通して治療効果を理解しておきましょう。
教科書	浅沼 辰志　編集：「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業学第 3 版」メジカルビュー社
参考書	古川　　宏　監：「作業活動実習マニュアル　第 2 版」医歯薬出版
オフィスアワー	木曜日の 12：10～13：00、職員室 メールアドレス：yuda@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	臨床で用いる作業活動を実践し、作業の治療的活用について理解する授業を行う。

授業科目	基礎作業学技術Ⅳ	科目担当者	宮尾　京介
学年	2 年	学期/時間数	後期 ／ 30 時間
授業形態	☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	実際の現場を見学し、作業療法の目的や効果、実施上の留意点などを学ぶ。その上で、実際に高齢者に対して作業療法提供までの一連の過程を経験する。また、これまでの基礎作業学技術Ⅰ～Ⅲで学んだ作業技術を振返り、対象者の状態に適した目的のある作業療法を立案する。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☑ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	①作業療法の治療的介入手段として使用される作業活動を見学し、作業活動の目的や効果、留意点などを理解する。 ②対象者の状態を評価し、対象者の状態に適した作業活動を選定できる。 ③作業活動を提供するための準備ができる。 ④対象者に作業活動を提供することができる。 ⑤提供した作業活動を振返り、課題の列挙と対策を考察することができる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	作業の実際（施設見学）
第 3 回	作業の実際（施設見学）
第 4 回	作業療法提供までの流れについて
第 5 回	対象者の評価（施設見学）
第 6 回	対象者の評価（施設見学）
第 7 回	レクリエーション 企画
第 8 回	レクリエーション 企画
第 9 回	レクリエーション リハーサル
第 10 回	レクリエーション リハーサル
第 11 回	レクリエーション 企画改善
第 12 回	レクリエーションの実施（施設見学）
第 13 回	レクリエーションの実施（施設見学）
第 14 回	振返り
第 15 回	振返りのまとめ
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	レポート 100％
準備学習	基礎作業学理論で学んだ作業分析の基礎知識の復習をしておきましょう。
事後学習	各活動に必要な材料・道具および工程を把握し、作品作製を通して治療効果を理解しておきましょう。
教科書	浅沼 辰志　編集：「作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 作業学第 3 版」メジカルビュー社
参考書	古川 宏　監：「作業活動実習マニュアル　第 2 版」医歯薬出版
オフィスアワー	宮尾　木曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：miyao@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	臨床で用いる作業活動を実践し、作業の治療的活用について理解する授業を行う。

授業科目	職業関連活動	科目担当者	後藤　一樹
学年	2 年	学期/時間数	後期　/　15 時間
授業形態	☑ 講義　☐ 演習　☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	職業の意義と職業リハビリテーションの実践について理解する。グループワークを通して作業療法における就労支援の実際について学び、就労支援での作業療法士の役割および機能について理解することができる。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション　☐その他（　　）		
到達目標	25　人が働くことの意義を理解できる。 26　障害者雇用における社旗資源と精度を理解できる。 27　職業リハビリテーションにおける関係機関との連携のあり方を理解できる。 28　職業リハビリテーションに必要な評価について理解できる。 29　事例を通して就労支援における作業療法士の役割および機能について理解できる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	ひとと職業：働く意味、障害者と職業
第 2 回	障害者の就労を支える法制度：障害者雇用促進法、障害者総合支援法
第 3 回	働くことへの作業療法士の関わり
第 4 回	職業評価
第 5 回	障害別就労支援の実際①　課題提示
第 6 回	障害別就労支援の実際②　グループワーク
第 7 回	障害別就労支援の実際③　グループ発表
第 8 回	障害者就業・生活支援センターの障害者雇用支援について/まとめ
第 9 回	
第 10 回	
第 11 回	
第 12 回	
第 13 回	
第 14 回	
第 15 回	
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	課題 30%、定期試験（筆記）70%
準備学習	講義前に教科書の学習範囲を熟読しておくこと
事後学習	講義資料は講義回ごとにファイルにとじ、インデックスをつける等の工夫をすることで、講義の資料が後からでも把握できるように整理してください。授業後に講義資料および参考書を用いて復習してください。
教科書	中村俊彦・他 編著：「就労支援の作業療法 -基礎から臨床実践まで-」医歯薬出版株式会社 能登 真一・他　編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第 3 版」医学書院
参考書	日本作業療法士協会 監修：「作業療法学全書 改訂第 3 版 第 12 巻 職業関連活動」協同医書出版社
オフィスアワー	金曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：k-gotou@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	作業療法士として勤務経験を基に実践に即した講義を行う。

授業科目	地域作業療法学	科目担当者	上原　佳代
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	☑ 講義　☐ 演習　☐ 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	地域で生活する障害者（児）や高齢者を支援するために必要な法制度、施策を理解し、地域社会で求められる作業療法士の役割について学ぶ。 地域での様々な作業療法の実践例を通してその活動内容や役割について学び、地域との連携について理解する。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	①生活の場である「地域」のしくみを説明できる。 ②「地域」における作業療法の役割について説明できる。 ③障害を抱えた人や高齢者が活用できる法制度、施策について説明できる。 ④様々な作業療法の実践の場での役割と連携のあり方について、述べることができる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	地域で生活をすること
第 2 回	地域リハビリテーションの経緯と理念
第 3 回	作業療法士が関与する関連法規と制度　①　社会保障制度
第 4 回	作業療法士が関与する関連法規と制度　②　医療システム
第 5 回	作業療法士が関与する関連法規と制度　③　介護保険制度の基本的な仕組み
第 6 回	作業療法士が関与する関連法規と制度　④　介護保険制度による各種サービス
第 7 回	作業療法士が関与する関連法規と制度　⑤　障害者施策
第 8 回	各事業所の実践　①　訪問・通所
第 9 回	各事業所の実践　②　入所
第 10 回	各事業所の実践　③　発達支援
第 11 回	各事業所の実践　④　精神障害領域
第 12 回	地域作業療法で必要な知識　感染症とリスク管理（転倒・誤嚥の予防）
第 13 回	地域作業療法で必要な知識　ライフステージでみる評価の視点
第 14 回	地域作業療法で必要な知識　連携と家族の理解
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	課題・提出物 20%、定期試験（筆記）80 %
準備学習	障害者（児）や高齢者が地域で生活していくために必要な仕組み（法制度や施設など）について、リハビリテーション概論で学んだ内容を復習しておきましょう。
事後学習	講義で伝えたポイントを中心に復習しておきましょう。
教科書	徳永 千尋・他 編集：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 地域作業療法学 改訂第 2 版」メジカルビュー社 医療情報科学研究所　編集：「公衆衛生がみえる 2024-2025」メディックメディア
参考書	大熊 明・他 編集：「標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学 第 4 版」医学書院 太田 睦美 編集：「作業療法学全書 第 13 巻 改訂第 3 版 地域作業療法学」協同医書出版社
オフィスアワー	火曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：uehara@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	実践経験を伝え、地域で活躍できる作業療法士としての知識の修得を促す授業を行う。

授業科目	日常生活活動	科目担当者	髙内　志保
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	☑ 講義　☐ 演習　☐ 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	日常生活活動（ADL）の基礎的知識、評価、動作分析の方法について学ぶ。 生活関連活動(APDL）の基礎的知識、評価の方法について学ぶ。 代表的な評価については、グループワークを通して、理解を深める。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	ADL の概念や範囲を説明できる。 Barthel Index の評価方法を説明できる。 FIM の評価方法を説明できる。 ADL の動作を分析できる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	ADL の概念・意義・範囲
第 2 回	APDL の概念・範囲
第 3 回	ADL と国際生活機能分類
第 4 回	ADL 評価の目的と意義
第 5 回	食事の動作分析と評価のポイント
第 6 回	整容の動作分析と評価のポイント
第 7 回	更衣の動作分析と評価のポイント
第 8 回	排泄の動作分析と評価のポイント
第 9 回	入浴の動作分析と評価のポイント
第 10 回	移動の動作分析と評価のポイント
第 11 回	ADL 評価（Barthel Index）
第 12 回	ADL 評価（FIM）
第 13 回	その他の ADL 評価
第 14 回	手段的 ADL（IADL）の評価
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	レポート 20%、定期試験（筆記）80%
準備学習	教科書を通読する
事後学習	配布した資料を確認し、ポイントを整理する
教科書	伊藤 利之・他　編：「新版日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－第 2 版」医歯薬出版 千野 直一・他　編：「脳卒中の機能評価　SIAS と FIM[基礎編]」金原出版
参考書	能登 真一・他　編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第 3 版」医学書院
オフィスアワー	水曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	日常生活活動の支援に必要な評価や動作分析法に関する講義を行う。

授業科目	生活環境学	科目担当者	油田　あゆみ
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	☐ 講義　☑ 演習　☐ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	作業療法士として専門的な視点で、対象者を取り巻く生活環境をどのように捉えるのか、どのように考えるのかを学ぶ。さらに、対象者の自立支援にあたって重要な位置づけになっている福祉用具と住環境整備に関する基礎的な知識と実践を学ぶ。授業は、生活環境学の概要や基本的な知識に関しては座学にて行い、福祉用具などは知識を深めるためにグループワークにて課題に沿って実際に体験し実践を身につける。		
	アクティブラーニング　☑グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	①福祉用具供給システムについて説明できる。 ②福祉用具のアセスメントについて説明できる。 ③主たる福祉用具について体験し、適用や選定ができる。 ④福祉用具種別に応じた支援の実際について説明できる。 ⑤住宅改修に基礎技術について説明できる。		

授 業 計 画	内　　容
第 1 回	福祉用具の定義と範囲
第 2 回	福祉用具の供給制度
第 3 回	福祉用具の導入、選定手順、アセスメント
第 4 回	福祉用具（演習：起居・床上動作関連）
第 5 回	福祉用具（演習：移乗関連）
第 6 回	福祉用具（演習：リフト、トランスファーボード、トランスファーシートの使用方法）
第 7 回	福祉用具（演習：移動関連）
第 8 回	福祉用具（演習：杖・車椅子の計測と使用方法）
第 9 回	福祉用具（演習：食事・整容・更衣関連）
第 10 回	福祉用具（演習：排泄・入浴関連）
第 11 回	福祉用具（演習：コミュニケーション関連）
第 12 回	福祉用具の疾患別適応
第 13 回	住環境整備に関連する制度と基本的事項
第 14 回	住環境整備（疾患別 ADL）
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	定期試験（筆記）90%、課題 10%
準備学習	今まで学んだリハビリテーションに関連する制度や疾患に関する知識を復習しておきましょう。
事後学習	講義終了時に理解できなかったところは質問を行いその都度解決しておきましょう。
教科書	伊藤 利之・他 編：「新版日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－第 2 版」医歯薬出版 山中 武彦・他　編：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト　福祉用具学　第 2 版」メジカルビュー社 医療情報科学研究所　編集：「公衆衛生がみえる 2024-2025」メディックメディア
参考書	佐伯　覚　編：「義肢装具学」医学書院
オフィスアワー	木曜日の 12：10～13：00、職員室 メールアドレス：yuda@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	日常生活活動一つ一つの活動に対し、福祉用具との適応を必要な動作と関連付けながら考える講義を行う。 実際に福祉用具に触れ、また多くの福祉用具の情報を得る場とする。

授業科目	臨床見学実習	科目担当者	油田あゆみ・宮尾京介・岩本 凌 髙内志保・上原佳代・後藤一樹
学年	1 年	学期/時間数	後期　／　45 時間
授業形態	☐ 講義　☐ 演習　☑ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	医療・福祉の現場で求められる様々な能力の中でも、対人交流技能は最も重要な能力と位置付けられるものである。 この実習では、病院・施設における対象者への援助や作業療法の実際を見学することを通じて、対人援助職として必要なコミュニケーションスキルおよび基本的心得を習得する。 また、見学で学んだことを報告会で共有することによって、各々の作業療法についての理解を深めていく。 アクティブラーニング　☐グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	30　対人援助職として必要な基本的態度およびコミュニケーションスキルを身につけることができる。 31　医療・福祉の現場における対象者の生活を知り、考察することができる。 32　対象者を中心とした作業療法の業務内容を理解することができる。 33　施設における役割や機能を理解することができる。		

授 業 計 画	内　　容
	2025 年　9 月　15 日（月）～ 9 月 20 日（土）　のうち 計 5 日間 病院・施設での実習 （1 日の実習時間については各病院・施設の規定に従う）
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	実習評価、実習報告会、提出書類などを基に総合的に判断する。
準備学習	臨床実習指導の科目に準じて予習、復習をしておき、これまでの学習内容を理解しておく。
事後学習	報告会にむけた準備を行うこと
教科書	臨床見学実習録
参考書	
オフィスアワー	上原　火曜日の 12：10～13：00、職員室　　メールアドレス：uehara@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	実践に即した実習のため、臨床実習指導者と連携して指導を行う。

授業科目	地域作業療法実習	科目担当者	髙内志保 油田あゆみ 宮尾京介 岩本凌 上原佳代 後藤一樹
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 45 時間
授業形態	☐ 講義 ☐ 演習 ☑ 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの現場を、見学を通して経験することで対象者の状態や地域での生活支援を把握するとともに、対象者や施設・医療スタッフに対して適切な態度で接すること、診療チームの一員としての作業療法士の役割について学ぶ。学内演習の作業療法評価学や作業療法治療学において得られた知識を、実際の現場で見学し、臨床実習に繋げ、問題解決能力を養うものである。実習終了後には報告会を行い、実習での成果を報告する。		
	アクティブラーニング ☐グループワーク ☐ディスカッション ☐プレゼンテーション ☐その他（ ）		
到達目標	①対象者とのコミュニケーションを経験する ②スタンダードプリコーションが実施できる ③チェックリストに記載している項目の見学ができる ④多職種連携（チーム連携）の見学若しくは経験をする ⑤作業療法計画の立案過程を見学し、臨床思考を養うことができる ⑥実施記録の意義や書類管理の重要性を理解する		

授 業 計 画	内 容
	11 月 10 日（月）～14 日（金）のうち 5 日間を実習期間とする。 介護老人保健施設または医療機関の通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションにて実施する。
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	実習評価、提出書類の結果を総合的に判断する。
準備学習	臨床実習指導の科目に準じて予習、復習をしておくこと
事後学習	報告会にむけた準備を行うこと
教科書	地域作業療法実習録 その他、必要に応じて提示
参考書	
オフィスアワー	金曜日の 12：10～13：00、職員室 メールアドレス：k-gotou@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	実践に即した実習のため、臨床実習指導者と連携して指導を行う。

授業科目	臨床実習	科目担当者	油田あゆみ 宮尾京介 岩本凌 上原佳代 後藤一樹 髙内志保
学年	3 年	学期/時間数	前期 / 900 時間
授業形態	☐ 講義　☐ 演習　☑ 実習	単位数	20 単位
授業の概要と方法	作業療法士に必要な基本的態度、技術、知識を修得し、合わせて医療従事者としての豊かな人格を育成する。 医療提供施設の他、介護保険施設、老人福祉施設、身体障害者福祉施設、児童福祉施設、指定障害福祉サービス事業所、指定障害者支援施設等において、臨床実習指導者の指導のもと実施する。 積極的に治療および作業療法介入場面を見学・模倣・実施し、作業療法の臨床思考過程を学ぶ。		
	アクティブラーニング　☐グループワーク　☐ディスカッション　☐プレゼンテーション ☐その他（　　）		
到達目標	・作業療法士となるために必要な技術（評価・治療）、知識を修得し、合わせて医療従事者としての基本的態度を身につける。 ・チームの一員として多職種連携の必要性を説明できる。 ・評価実習では、作業療法評価が見学・模倣を経て、指導者の監視下で実施できるようになり、全体像の把握・目標設定・作業療法プログラムの立案ができる。 ・総合臨床実習では、作業療法プログラムの見学・模倣を経て、指導者の監視下で実施できる。		

授 業 計 画	内　　容
	臨床実習前（OSCE/臨床技能試験）　令和 7 年 4 月 4 日（金） 評価実習　令和 7 年 4 月 7 日（月）～5 月 3 日（土）4 週間（180 時間） 総合臨床実習 1 期　令和 7 年 5 月 12 日（月）～7 月 5 日（土）8 週間（360 時間） 総合臨床実習 2 期　令和 7 年 7 月 14 日（月）～9 月 6 日（土）8 週間（360 時間） 臨床実習後（OSCE）　令和 7 年 9 月 8 日（月）
成績評価の方法 ［評価項目と割合］	実習前後の OSCE、実習前の臨床技能試験、実習評価の結果から総合的に評価する。
準備学習	実習施設の概要や対象となる疾患、領域における主要となる評価など、学内での学習内容をもとに各実習で事前学習に取り組みましょう。また、事前学習した資料は実習中に確認できるように整理しましょう。
事後学習	実習終了後、感想や報告書（レジュメ）の作成、学内教員とのフィードバックなどを通じて、実習で成長・習得できた事、または課題となった事を振り返りましょう。
教科書	臨床実習録 1 年次、2 年次までの全ての科目で用いた教科書
参考書	1 年次、2 年次までの全ての科目で用いた参考書・配布資料
オフィスアワー	岩本　木曜日の 12：10～12：45、職員室　　メールアドレス：miyao@tohaya.ac.jp 髙内　水曜日の 12：10～12：45、職員室　　メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした教育内容	各教員の専門領域における知識と経験をもとに，臨床実習に必要となる知識・技能の修得に向けた学修支援を行う。また、臨床実習では臨床実習指導者と共に各担当教員が連携し、作業療法士に必要となる基本的態度・技能・知識の修得を支援する。